

# だいきく通信 第二十四号「冬の号」

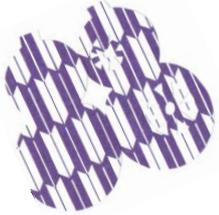
いあつわつ

日頃より当神社での神明奉仕にご協力を賜り、ありがとうございます。

今年もあとわずかとなりました。この時期には珍しい大雨、急な冷え込みと陽気が落ち着きません。何かと動きの激しい世の中を映しているようにも思えます。新しい年が穏やかな年であつてほしいと願わずにはおれません。

社報「だいきく通信」第二十四号をお届けします。今回の内容は、新年のご祈祷受付時間のご案内、催し物予告、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」などです。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社 宮司 大島資生



## 平成二十八年新年のご祈祷受付時間

一月 一日（金） 午前零時～二時 午前六時～午後五時  
 二日（土） 午前八時～午後五時  
 三日（日） 午前八時～午後五時  
 四日（月） 午前八時～午後三時  
 五日（火） 午前八時～正午  
 六日（水） 午前八時～正午  
 七日（木） 初子 午前八時～午後三時

平成28年の厄年一覧(数元年)			
	前厄	本厄	後厄
男性の厄年	24歳 平成5年生 とり	25歳 平成4年生 さる	26歳 平成3年生 ひつじ
	41歳 昭和51年生 たつ	42歳 昭和50年生 う(うさぎ)	43歳 昭和49年生 とら
	60歳 昭和32年生 とり	61歳 昭和31年生 さる	62歳 昭和30年生 ひつじ
女性の厄年	18歳 平成11年生 う(うさぎ)	19歳 平成10年生 とら	20歳 平成9年生 うし
	32歳 昭和60年生 うし	33歳 昭和59年生 ね(ねずみ)	34歳 昭和58年生 ゐ(いのしし)
	36歳 昭和56年生 とり	37歳 昭和55年生 さる	38歳 昭和54年生 ひつじ

※近年は女性61歳の還暦も厄年とする場合もあります。

# 大國神社の今

(催し物予告)

当神社では、お宮を少しでも身近に感じていただくため、来年も催しを予定しております。

・第五回だいきく落語会 開催決定！

平成二十八年五月二十一日(土) 午後六時より

ご好評をいただいております落語会、次回も古今亭菊之丞師匠をお迎えして開催予定です。詳細は次号でお伝えします。

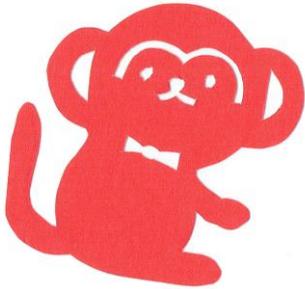
・第二回だいきくクラシックス

十月に開催し、こちらでもご好評をいただきました、だいきくクラシックス、次回も小林久美さん(東京都交響楽団)をお迎えしてヴァイオリン・リサイタルを開催する予定です。日時が決まり次第ご案内いたします。

## お宮あれこれ「サル」の話

来年の干支は「申」、ということですが、今回はサルにまつわるお話です。

サルには「真猿(まさる)」という異名があり、このことばは「勝(まさ)る・増(まさ)る」あるいは「魔(ま)去る」に通じるので縁起がよいとされました。この「真猿」という言いかたは、古く平安時代から用いられていた「ましら」という



ことばとも関係があるのかもしれませんが。また、サルをややさげすんで言う言いかたとして「えてこう(得手公)」があります。これは「サル」が「去る」に通じるところから縁起が悪いとして、「去る」と対になる「得る」を使ったものとされます。果物の梨を「無し」に通じるために「有りの実」というのと同じ発想の忌み言葉です。

サルが登場する十二支は、昔は時刻や方角を表わすのに使われていました。十二支のサルは「申」と書き、方角としては西南西にあたります。

昔、陰陽道では「金神(こんじん)」という神は祟りをなす神として恐れられていました。この神のいる方角は「大凶方」とされました。この考え方が同じく陰陽道の鬼門の信仰と結びつき、金神が鬼門にいるとき(鬼門金神)が特に恐れられるようになったそうです。



鬼門というのは邪悪な鬼が出入りする方角ということで、古来、北東の方角、すなわち「丑寅(良)」が表鬼門と呼ばれました。たとえば家相ではこの鬼門の方角に玄関、便所、風呂場などを置いてはならない、などとされます。また、「角が突出しないように」と隅切りにする、鬼をよけるために鬼瓦を置くといった習慣も生まれました。また、比叡山延暦寺は当時の都であった京都の北東に位置し、鬼門を考慮した立地ともされています。

「丑寅」のちょうど反対の方角は「未申」で、こちらは裏鬼門と呼ばれ、こちらも家相では不吉な方角とされています。この裏鬼門の方角に「申（さる）」がいることは、先に述べた「魔去る」などの捉え方と関係があると考えられます。ちなみに、「申」は西南西、そこから時計回りに進んでいくと、西の方角が「酉（とり）」、西北西が「戌（いぬ）」と、「桃太郎」のお供をした動物が並んでいます。このことも、魔除けとしてのサルの捉え方とも関係があるようです。

さて、前出の比叡山にいらっしやる神様、大山咋（おおやまくい）神をまつった神社が日吉大社です。同じ神様をお祀りする神社として「日吉神社」「日枝神社」という社名をもつ神社は全国に四千近くあるとされています。大山咋神は別名「山王」とも呼ばれ、山の神様です（オオヤマクイの「クイ」は、「杭」を打ったようにしつかりと鎮座していらっしやるという意味だとも考えられます）。

サルはこの神様のお使いだとされています。

サルという動物は古来人間にとって大変身近な動物でした。

「桃太郎」「猿蟹合戦」など昔話にも頻繁に登場しますし、有名な「鳥獣人物戯画」（高山寺・写真）にもユーモラスな姿が見られます。昔話のサルはキツネなどとは異なつて、特別な能力をもった存在として描かれることはありません。ときに従順、ときにずるが



しこいものとして現れます。「猿知恵」「猿真似」などの表現にも、サルに対するこうした捉え方が表われています。一方、サルはお産が軽い動物としても知られ、そこから安産の神と考えられることもあるようです。また、サルは群れの中のどの子どもにも授乳することで知られ、子どもへの愛情を象徴する動物とも考えられています。

サルは群れで行動し、人間とよく似たしぐさ、動作をする動物です。新しい年、身近な動物であるサルに目を向け、そこからわたくしたち人間の暮らし方を改めて考えてみるのも何かの参考になるかもしれません。

なお、今回の連載まんがには新しくサルのキャラクターが登場しています。双子うさぎと仲良しの「ズッチー」です。ズッチーの今後の活躍をどうぞお楽しみに。

